



# 認証報告書

独立行政法人情報処理推進機構  
理事長 藤江 一正



## 評価対象

申請受付日（受付番号）	平成26年6月26日（IT認証4516）
認証番号	C0447
認証申請者	キヤノン株式会社
TOEの名称	Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model
TOEのバージョン	1.3
PP適合	IEEE Std 2600.1-2009
適合する保証パッケージ	EAL3 及び追加の保証コンポーネントALC_FLR.2
開発者	キヤノン株式会社
評価機関の名称	みずほ情報総研株式会社 情報セキュリティ評価室

上記のTOEについての評価は、以下のとおりであることを認証したので報告します。

平成26年11月27日

技術本部  
セキュリティセンター 情報セキュリティ認証室  
技術管理者 山里 拓己

評価基準等：「ITセキュリティ評価及び認証制度の基本規程」で定める下記の規格に基づいて評価された。

- ① Common Criteria for Information Technology Security Evaluation  
Version 3.1 Release 4
- ② Common Methodology for Information Technology Security Evaluation  
Version 3.1 Release 4

## 評価結果：合格

「Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model」は、独立行政法人情報処理推進機構が定めるITセキュリティ認証等に関する要求事項に従い、定められた規格に基づく評価を受け、所定の保証要件を満たした。

# 目次

---

1	全体要約	1
1.1	評価対象製品概要	1
1.1.1	保証パッケージ	1
1.1.2	TOEとセキュリティ機能性	1
1.1.2.1	脅威とセキュリティ対策方針	2
1.1.2.2	構成要件と前提条件	2
1.1.3	免責事項	2
1.2	評価の実施	2
1.3	評価の認証	3
2	TOE識別	4
3	セキュリティ方針	5
3.1	セキュリティ機能方針	6
3.1.1	脅威とセキュリティ機能方針	6
3.1.1.1	脅威	6
3.1.1.2	脅威に対するセキュリティ機能方針	6
3.1.2	組織のセキュリティ方針とセキュリティ機能方針	8
3.1.2.1	組織のセキュリティ方針	8
3.1.2.2	組織のセキュリティ方針に対するセキュリティ機能方針	9
4	前提条件と評価範囲の明確化	11
4.1	使用及び環境に関する前提条件	11
4.2	運用環境と構成	11
4.3	運用環境におけるTOE範囲	13
5	アーキテクチャに関する情報	15
5.1	TOE境界とコンポーネント構成	15
5.2	IT環境	16
6	製品添付ドキュメント	17
7	評価機関による評価実施及び結果	18
7.1	評価機関	18
7.2	評価方法	18
7.3	評価実施概要	18
7.4	製品テスト	19
7.4.1	開発者テスト	19
7.4.2	評価者独立テスト	22
7.4.3	評価者侵入テスト	25
7.5	評価構成について	28
7.6	評価結果	29

7.7	評価者コメント/勧告 .....	30
8	認証実施 .....	31
8.1	認証結果 .....	31
8.2	注意事項 .....	31
9	附属書 .....	32
10	セキュリティターゲット .....	32
11	用語 .....	33
12	参照 .....	36

## 1 全体要約

この認証報告書は、キヤノン株式会社が開発した「Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model バージョン 1.3」(以下「本 TOE」という。)についてみずほ情報総研株式会社 情報セキュリティ評価室 (以下「評価機関」という。)が平成 26 年 11 月に完了した IT セキュリティ評価に対し、その内容の認証結果を申請者であるキヤノン株式会社に報告するとともに、本 TOE に関心を持つ調達者や消費者に対しセキュリティ情報を提供するものである。

本認証報告書の読者は、本書の付属書であるセキュリティターゲット (以下「ST」という。)を併読されたい。特に本 TOE のセキュリティ機能要件、保証要件及びその十分性の根拠は、ST において詳述されている。

本認証報告書は、本 TOE を購入する調達者、及び一般消費者を読者と想定している。本認証報告書は、本 TOE が適合する保証要件に基づいた認証結果を示すものであり、個別の IT 製品そのものを保証するものではないことに留意されたい。

### 1.1 評価対象製品概要

本 TOE の機能、運用条件の概要を以下に示す。詳細は 2 章以降を参照のこと。

#### 1.1.1 保証パッケージ

本 TOE の保証パッケージは、EAL3 及び追加の保証コンポーネント ALC\_FLR.2 である。

#### 1.1.2 TOE とセキュリティ機能性

本 TOE は、コピー機能、プリント機能、送信(Universal Send)機能、インターネットファクス機能、ボックス機能等を併せ持つデジタル複合機 (以下「MFP」という。)である。本 TOE は、オプションであるファクスボードを利用することで電話回線を使用したファクス機能を利用することも可能である。

本 TOE は、デジタル複合機用の Protection Profile である IEEE Std 2600.1-2009 [14] (以下[PP]という。)で定義されているセキュリティ機能要件について、要求されているすべてのセキュリティ機能要件を満足するセキュリティ機能を提供する。

これらのセキュリティ機能性について、その設計方針の妥当性と実装の正確性について保証パッケージの範囲で評価が行われた。本 TOE が想定する脅威及び前提については次項のとおり。

### 1.1.2.1 脅威とセキュリティ対策方針

本 TOE は、以下の脅威を想定しており、それに対抗するセキュリティ機能を提供する。

TOE の保護資産である利用者の文書データ及びセキュリティ機能に影響するデータは、TOE の操作や、TOE が設置されているネットワーク上の通信データへのアクセスによって、不正に暴露されたり改ざんされたりする脅威がある。

そのため TOE は、それらの保護資産の不正な読出しや改ざんを防止するために、識別認証、アクセス制御、暗号化等のセキュリティ機能を提供する。

### 1.1.2.2 構成要件と前提条件

評価対象製品は、次のような構成及び前提で運用することを想定する。

本 TOE は、TOE の物理的部分やインタフェースが不正なアクセスから保護されるような環境に設置されることを想定している。また、TOE の運用にあたっては、ガイダンス文書に従って適切に設定し、維持管理しなければならない。

### 1.1.3 免責事項

- ・ 本 TOE はファクス機能を含む PP 適合を主張しており、本評価の対象は、TOE である MFP にオプションのファクスボードを搭載した構成である。  
以下の構成は本評価の対象ではない。
  - ファクスボードを搭載していない構成。
  - ファクスボードを標準搭載した機種(iR-ADV C5255F など、末尾に F の付いた型番)。
- ・ 本評価の対象となる識別認証は、プリントジョブの投入時には適用されない。プリントジョブの投入で使用するプロトコル自体が識別認証を備えていても、そのプロトコルの識別認証は本評価の対象外である。

## 1.2 評価の実施

認証機関が運営する IT セキュリティ評価・認証制度に基づき、公表文書「IT セキュリティ評価及び認証制度の基本規程」[1]、「IT セキュリティ認証等に関する要求事項」[2]、「IT セキュリティ評価機関承認等に関する要求事項」[3]に規定された

内容に従い、評価機関によって本 TOE に関わる機能要件及び保証要件に基づいて IT セキュリティ評価が実施され、平成 26 年 11 月に完了した。

### 1.3 評価の認証

認証機関は、評価機関が作成した評価報告書[13]、所見報告書、及び関連する評価証拠資料を検証し、本 TOE の評価が所定の手続きに沿って行われたことを確認した。認証の過程において発見された問題については、認証レビューを作成した。認証機関が指摘した問題点は、すべて解決され、かつ、TOE の評価が CC ([4][5][6] または[7][8][9]) 及び CEM ([10][11]のいずれか) に照らして適切に実施されていることを確認した。認証機関は同報告書に基づき本認証報告書を作成し、認証作業を終了した。

## 2 TOE識別

本 TOE は、以下のとおり識別される。

TOE名称： Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model  
バージョン： 1.3  
開発者： キヤノン株式会社

本 TOE は、以下のソフトウェア、ハードウェア及びライセンスから構成される。

表2-1 TOEの構成品

名称	説明
(和文名称) Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series (英文名称) Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series	デジタル複合機iR-ADV C5255、 iR-ADV C5250、iR-ADV C5240、iR-ADV C5235のいずれ か。
(和文名称) iR-ADV セキュリティーキット・C1 for IEEE 2600.1 Ver 1.03 (英文名称) iR-ADV Security Kit-C1 for IEEE 2600.1 Common Criteria Ver 1.03	「Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series」用の 制御ソフトウェア及びセキュリ ティーキットライセンスが含ま れる。
(和文名称) HDDデータ暗号化/ミラーリングキットC (Canon MFP Security Chip 2.01) (英文名称) HDD Data Encryption & Mirroring Kit-C (Canon MFP Security Chip 2.01)	HDDに格納されるデータ全体を 暗号化するためのハードウェ ア。

製品が評価・認証を受けた本 TOE であることを、利用者は以下の方法によって確認することができる。

ガイダンスに記載された手順に従って、デジタル複合機の操作パネルを操作して画面に表示された TOE の構成品の識別情報を確認する。

### 3 セキュリティ方針

本章では、本 TOE が脅威に対抗するために採用したセキュリティ機能方針や組織のセキュリティ方針を説明する。

TOE は、コピー機能、プリント機能、スキャン機能等の MFP 機能を提供しており、利用者の文書データを内部のハードディスク装置に蓄積したり、ネットワークを介して利用者の端末や各種サーバとやりとりしたりする機能を有している。

本 TOE が適合する PP は、比較的高いレベルのセキュリティ確保や操作の説明責任が求められる環境を想定しており、その環境で必要とされるセキュリティ機能要件を規定している。

TOE は、MFP 機能を使用する際に、PP で要求されているセキュリティ機能要件を満たすセキュリティ機能を提供する。TOE の提供するセキュリティ機能には、利用者の識別認証とアクセス制御、ハードディスク装置の蓄積データの暗号化とデータ削除時の上書き消去、暗号通信プロトコル等が含まれており、保護資産である利用者の文書データ及びセキュリティに影響する設定データが、不正に暴露されたり改ざんされたりすることを防止する。

なお、TOE は、使用に関して以下の役割を想定している。

- U.NORMAL

TOE が提供するコピー機能、プリント機能、スキャン機能等の TOE の利用者である。

- U.ADMINISTRATOR

TOE のセキュリティ機能の設定を行うための特別な権限を持つ TOE の利用者である。

- TOE Owner

TOE 資産の保護や、TOE の運用環境のセキュリティ対策方針の実現に責任を持つ人物または組織である。

また、TOE の保護資産は以下のものである。

- User Document Data

利用者の文書データ。

- User Function Data

TOE によって処理される利用者の文書データやジョブに関連する情報。プリントの優先度とプリント設定が含まれる。



- ・ TSF Confidential Data

セキュリティ機能で 사용되는データの中で、完全性と秘匿性が求められるデータ。利用者のパスワード、ボックス暗証番号、監査ログが含まれる。なお暗号鍵は、利用者が操作可能なインタフェースが存在しないため、含まれない。

- ・ TSF Protected Data

セキュリティ機能で 사용되는データの中で、完全性だけが求められるデータ。利用者の識別情報や権限情報等が含まれる。

### 3.1 セキュリティ機能方針

TOE は、3.1.1 に示す脅威に対抗し、3.1.2 に示す組織のセキュリティ方針を満たすセキュリティ機能を具備する。

#### 3.1.1 脅威とセキュリティ機能方針

##### 3.1.1.1 脅威

本 TOE は、表 3-1 に示す脅威を想定し、これに対抗する機能を備える。これらの脅威は、PP に記述されているものと同じである。

表3-1 想定する脅威

識別子	脅 威
T.DOC.DIS	User Document Data may be disclosed to unauthorized persons
T.DOC.ALT	User Document Data may be altered by unauthorized persons
T.FUNC.ALT	User Function Data may be altered by unauthorized persons
T.PROT.ALT	TSF Protected Data may be altered by unauthorized persons
T.CONF.DIS	TSF Confidential Data may be disclosed to unauthorized persons
T.CONF.ALT	TSF Confidential Data may be altered by unauthorized persons

##### 3.1.1.2 脅威に対するセキュリティ機能方針

本 TOE は、表 3-1 に示す脅威に対し、以下のセキュリティ機能方針に対抗する。

## (1) 脅威「T.DOC.DIS」「T.DOC.ALT」「T.FUNC.ALT」への対抗

これらは利用者のデータに対する脅威であり、TOEは、「ユーザー認証機能」、「ジョブ実行アクセス制御機能」、「投入ジョブアクセス制御機能」、「HDDデータ完全消去機能」、「HDD暗号化機能」及び「LANデータ保護機能」で対抗する。

TOEの「ユーザー認証機能」「ジョブ実行アクセス制御機能」は、正当な利用者だけにTOEの利用を許可する。これらの機能の詳細は、3.1.2.2のP.USER\_AUTHORIZATIONの項目を参照。

TOEの「投入ジョブアクセス制御機能」は、識別認証された利用者が、TOEに保存されたプリントジョブとIファクスジョブの文書、及びボックスに保存された文書に対して、印刷、プレビュー、ネットワークへの送信、ファクス送信、削除、プリントの優先度の変更、プリント設定の変更の操作をする際にアクセス制御を行い、操作対象の文書の所有者とU.ADMINISTRATORに当該操作を許可する。識別認証された利用者が文書の所有者であるかどうかは、以下のように判定される。

- ・ プリントジョブとして投入された文書の場合には、識別認証された利用者のユーザー名が、プリントジョブ投入時に指定されたユーザー名と一致する場合、所有者であると判定される。
- ・ スキャン機能やIファクスなどプリントジョブ以外の手段によって保存された文書の場合には、操作時にボックス暗証番号の入力が求められる。文書を格納するためのボックスは、ユーザー毎に割当てられ事前に7桁のボックス暗証番号が設定されている。利用者が入力したボックス暗証番号と、ユーザー毎のボックスに事前設定されたボックス暗証番号が一致する場合、所有者であると判定される。

TOEの「HDDデータ完全消去機能」は、文書ファイルを削除する際に、文書ファイルが格納されていたHDD領域を上書き消去し、削除した文書ファイルの内容がHDDから読み出されることを防止する。

TOEの「HDD暗号化機能」は、TOEが備えている取り外し可能なHDDに格納される全データを暗号化することにより、TOEから取り外された状態のHDDから、データが漏えいしたり改ざんされたりすることを防止する。なお、暗号アルゴリズムは256bitのAESであり、暗号鍵は起動時にFIPS PUB 186-2の決定論的乱数生成メカニズムに従って生成され、電源オフにより消去される。

TOEの「LANデータ保護機能」は、TOEがLANを経由して他のIT機器と通信する際に、暗号通信プロトコルであるIPsecを適用し、通信データが漏えいしたり改ざんされたりすることを防止する。

以上の機能により、TOEは、TOEの権限外使用や、HDDに格納されたデータや通信データへの不正アクセスによって、保護対象のデータが漏えいしたり

改ざんしたりすることを防止する。

(2) 脅威「T.PROT.ALT」「T.CONF.DIS」「T.CONF.ALT」への対抗

これらはセキュリティ機能に影響するTSFデータに対する脅威であり、TOEは、「ユーザー認証機能」、「管理機能」、「HDD暗号化機能」及び「LANデータ保護機能」で対抗する。

TOEの「管理機能」は、利用者情報の管理や、各種設定データの管理を、識別認証されたU.ADMINISTRATORだけに許可する。ただし、U.NORMALは、自身のパスワード及び自身の利用するボックスのボックス暗証番号の変更は許可される。

その他の「ユーザー認証機能」、「HDD暗号化機能」及び「LANデータ保護機能」は、(1)の場合と同じである。

以上の機能により、TOEは、TOEの権限外使用や、HDDに格納されたデータや通信データへの不正アクセスによって、保護対象のデータが漏えいしたり改ざんしたりすることを防止する。

### 3.1.2 組織のセキュリティ方針とセキュリティ機能方針

#### 3.1.2.1 組織のセキュリティ方針

本 TOE の利用に当たって要求される組織のセキュリティ方針を表 3-2 に示す。P.HDD.ACCESS.AUTHORIZATION を除くセキュリティ方針は、PP に記述されているものと同じである。P.HDD.ACCESS.AUTHORIZATION は、PP に対して追加されたものであり、TOE が備えているリムーバブル HDD を利用するにあたり、一般的に要求されることを想定したセキュリティ方針である。

表3-2 組織のセキュリティ方針

識別子	組織のセキュリティ方針
P.USER.AUTHORIZATION	To preserve operational accountability and security, Users will be authorized to use the TOE only as permitted by the TOE Owner
P.SOFTWARE.VERIFICATION	To detect corruption of the executable code in the TSF, procedures will exist to self-verify executable code in the TSF.

識別子	組織のセキュリティ方針
P.AUDIT.LOGGING	To preserve operational accountability and security, records that provide an audit trail of TOE use and security-relevant events will be created, maintained, and protected from unauthorized disclosure or alteration, and will be reviewed by authorized personnel.
P.INTERFACE.MANAGEMENT	To prevent unauthorized use of the external interfaces of the TOE, operation of those interfaces will be controlled by the TOE and its IT environment
P.HDD.ACCESS.AUTHORIZATION	To prevent access TOE assets in the HDD with connecting the other HCDs, TOE will have authorized access the HDD data.

### 3.1.2.2 組織のセキュリティ方針に対するセキュリティ機能方針

TOE は、表 3-2 に示す組織のセキュリティ方針を満たす機能を具備する。

#### (1) 組織のセキュリティ方針「P.USER.AUTHORIZATION」への対応

TOEは、「ユーザー認証機能」、「ジョブ実行アクセス制御機能」で本方針を実現する。

TOEの「ユーザー認証機能」は、識別認証の成功した利用者だけにTOEの利用を許可する。さらにTOEは、識別認証機能を補強するために、認証用のパスワードは、規定された長さや文字種を混在した文字列に限定し、規定回数連続して認証失敗した場合には、識別認証を規定時間停止する。

なお、プリントジョブの投入、およびファクス/Iファクスの受信は、識別認証なしで受け付ける。しかし、それらの受け付けた文書は、受け付けた時点では印刷や送信はされずTOE内に格納される。TOEに格納された文書の印刷や送信を行うためにはTOEの操作パネルでの操作が必要であり、識別認証が要求される。

TOEの「ジョブ実行アクセス制御機能」は、識別認証された利用者がTOEの機能を使用する際にアクセス制御を行い、権限のある利用者だけに実行を許可する。アクセス制御では、利用者に設定された「ルール」と呼ばれる権限情報を参照し、対象機能の実行が許可されているかどうかを判断する。

これらにより、TOEは、正当な利用者だけにTOEの利用を許可する。

#### (2) 組織のセキュリティ方針「P.SOFTWARE.VERIFICATION」への対応

TOEは、「自己テスト機能」で本方針を実現する。

TOEの「自己テスト機能」は、起動時に、HDDに暗号化されて格納されている実行コードを復号した後、LANデータ保護機能で使用する暗号アルゴリズム及び暗号鍵生成アルゴリズムの完全性をチェックする。それにより、TOEセキュリティ機能の実行コードの完全性が検査される。

なお、本機能は、TOEセキュリティ機能の実行コードの一部だけをチェックしているが、その部分の完全性が確認されれば、同じメカニズムで復号された他の実行コードも完全であるという評価がされている。

(3) 組織のセキュリティ方針「P.AUDIT.LOGGING」への対応

TOEは、「監査ログ機能」で本方針を実現する。

TOEの「監査ログ機能」は、セキュリティ機能の使用において、セキュリティ事象が発生した際に監査ログを生成しTOEのHDDに格納する。格納された監査ログは、識別認証されたU.ADMINISTRATORだけがWebブラウザを使用して読み出すことができる。

(4) 組織のセキュリティ方針「P.INTERFACE.MANAGEMENT」への対応

TOEは、「ユーザー認証機能」と「受信ジョブ転送機能」で、本方針を実現する。

TOEの「ユーザー認証機能」は、識別認証の成功した利用者だけにTOEの利用を許可する。また、利用者が操作をしない状態が規定時間経過した場合には、セッションを切断する。

また、TOEの「受信ジョブ転送機能」は、TOEの各種インタフェースから受信したデータを、TOEが処理せずにLANに転送することができないしくみになっている。

これらにより、TOEのインタフェースが不正に使用されることを防止する。

(5) 組織のセキュリティ方針「P.HDD.ACCESS.AUTHORIZATION」への対応

TOEは、「HDD暗号化機能」に含まれている本体識別認証機能で、本方針を実現する。

TOEの「HDD暗号化機能」の本体識別認証機能は、TOEの構成要素であるHDDデータ暗号化/ミラーリングボードが提供する機能である。当該ボードは、取付け時にデジタル複合機本体の認証用IDが設定される。それをを用いて、当該ボードは、毎回起動時にチャレンジ&レスポンス方式でデジタル複合機本体を認証し、正当なデジタル複合機本体の場合のみHDDへのアクセスを許可する。

## 4 前提条件と評価範囲の明確化

本章では、想定する読者が本 TOE の利用の判断に有用な情報として、本 TOE を運用するための前提条件及び運用環境について記述する。

### 4.1 使用及び環境に関する前提条件

本 TOE を運用する際の前提条件を表 4-1 に示す。これらの前提条件は、PP に記述されているものと同じである。

これらの前提条件が満たされない場合、本 TOE のセキュリティ機能が有効に動作することは保証されない。

表4-1 前提条件

識別子	前提条件
A.ACCESS.MANAGED	The TOE is located in a restricted or monitored environment that provides protection from unmanaged access to the physical components and data interfaces of the TOE.
A.USER.TRAINING	TOE Users are aware of the security policies and procedures of their organization, and are trained and competent to follow those policies and procedures.
A.ADMIN.TRAINING	Administrators are aware of the security policies and procedures of their organization, are trained and competent to follow the manufacturer's guidance and documentation, and correctly configure and operate the TOE in accordance with those policies and procedures.  ※ "correctly configure"には、例えば「8.2 注意事項」の(1)(2)のような内容が含まれる。
A.ADMIN.TRUST	Administrators do not use their privileged access rights for malicious purposes.

### 4.2 運用環境と構成

TOE であるデジタル複合機は、一般的な業務オフィスにおいて、ファイアウォールなどで外部ネットワークの脅威から保護された内部ネットワークに接続されて利用されることを想定している。本 TOE の一般的な運用環境を図 4-1 に示す。

TOE の利用者は、TOE の操作パネル、USB に接続された PC、LAN に接続された PC を操作して、TOE を使用する。

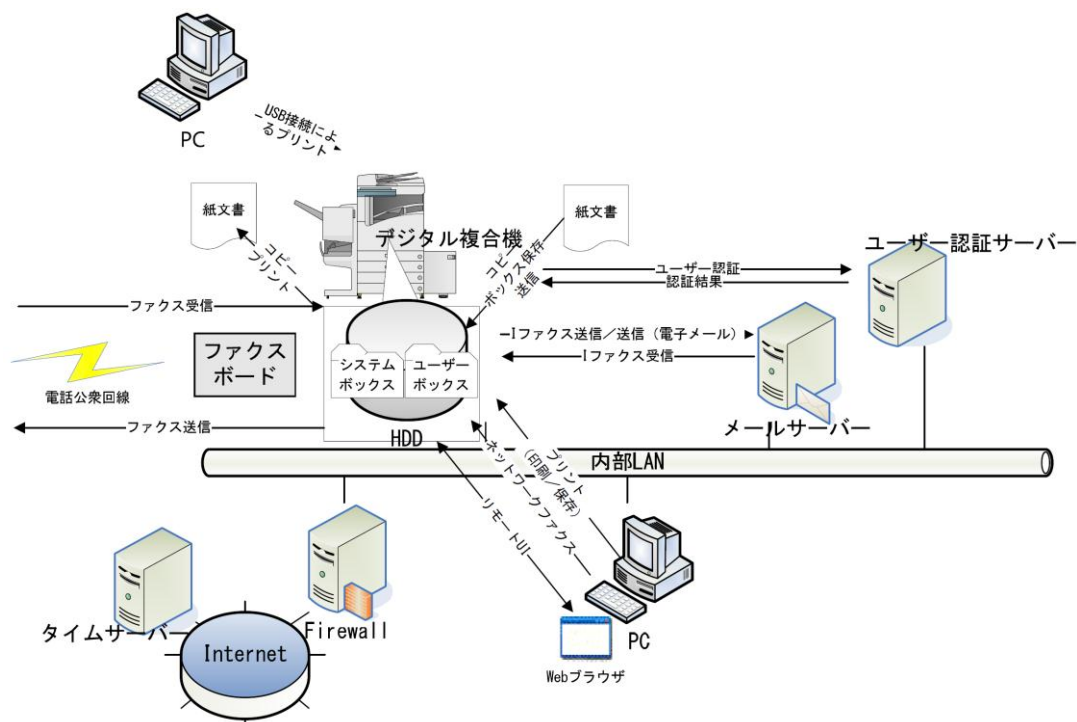


図4-1 TOEの運用環境

TOE の使用環境の構成品について以下に示す。

#### (1) ファクスボード

電話公衆回線を利用してファクスの送受信を行うために、TOEに装着する。ただし、TOEには含まれない。

キヤノン株式会社製のスーパー G3 FAX ボード・AE2である。

#### (2) ファクスボード (2回線目以降のオプション)

必要に応じて、以下のファクスボードを装着可能である。これらのファクスボードもTOEには含まれない。

- ・ キヤノン株式会社製のG3回線増設キット (2回線)・AE1
- ・ キヤノン株式会社製のG3回線増設キット (3・4回線)・AE1

#### (3) PC

利用者が使用する汎用のPCであり、USBまたは内部LANを介してTOEと接続する。以下のソフトウェアが必要である。

- ・ プリンタドライバ：本評価では、Canon LIPSLX Printer Driver Version 20.90 Alpha1.0 を使用。
- ・ Webブラウザ：本評価では、Microsoft Internet Explorer 8 を使用。

## (4) ユーザー認証サーバ

3章で説明したTOEの「ユーザー認証機能」は、TOE内に保存されている利用者情報を使用する「内部認証方式」と、外部のサーバに登録されている利用者情報を使用する「外部認証方式」をサポートしている。

ユーザー認証サーバは、TOEで「外部認証方式」を使用する場合に必要なサーバである。認証プロトコルは、KerberosまたはLDAP認証方式である。

本評価では、LDAP認証方式を使用する場合、認証サーバソフトウェアとしてeDirectory 8.8 SP7を使用した。

## (5) メールサーバ

MFPのIファクス機能を利用する際に、必要に応じて設置する。

## (6) タイムサーバ

インターネットで一般に提供されているNTPサービスである。監査ログのタイムスタンプに使用されるMFPの時刻を同期させるために、使用可能な環境の場合にはTOEに設定することが推奨される。設定しない運用も可能であるが、その場合、TOEの管理機能で設定され維持される時刻が使用される。

なお、本構成に示されている TOE 以外のソフトウェアやハードウェアの信頼性は本評価の範囲ではない。

### 4.3 運用環境におけるTOE範囲

本評価では、MFPのプリント機能に対して、PPが要求している識別認証のセキュリティ機能要件は、MFPにプリントジョブを投入する操作は適用対象外であり、MFPにプリントジョブとして投入され蓄積された文書に対する印刷等の操作だけが適用対象であるという解釈がされている。そのため、以下は評価対象のセキュリティ機能ではない。

- ① TOEでは、プリントジョブの投入で、各種のプリント用のプロトコルをサポートしている。プロトコルによっては、プロトコル自体が識別認証の機能を備えているが、それらは評価対象のセキュリティ機能ではない。例えば、IPPプロトコルが備えている識別認証や、FTP印刷でFTPプロトコルが備えている識別認証が該当する。
- ② TOEに、プリンタドライバでプリントジョブを投入する際に、ユーザー名と暗証番号の入力を求められる。それらの入力、識別認証機能では使用されない。暗証番号は、プリントジョブとして投入された文書に付与され、当該文書を操作



パネルから印刷操作する際に照合を求められる（これを「セキュアプリント」という）。そのふるまいは、評価対象のセキュリティ機能ではない。ユーザー名は、その正当性を認証されることなく、プリントジョブとして投入された文書の属性として付与され、評価対象のアクセス制御機能で使用される。

## 5 アーキテクチャに関する情報

本章では、本 TOE の範囲と主要な構成（サブシステム）を説明する。

### 5.1 TOE境界とコンポーネント構成

図 5-1 に、TOE である MFP の構成を、MFP 以外の IT 環境と共に示す。図 5-1 で、TOE は中央の TOE と記述した太線で囲まれている部分であり、ユーザー認証サーバ、メールサーバ、PC、タイムサーバ、ユーザーは含まない。

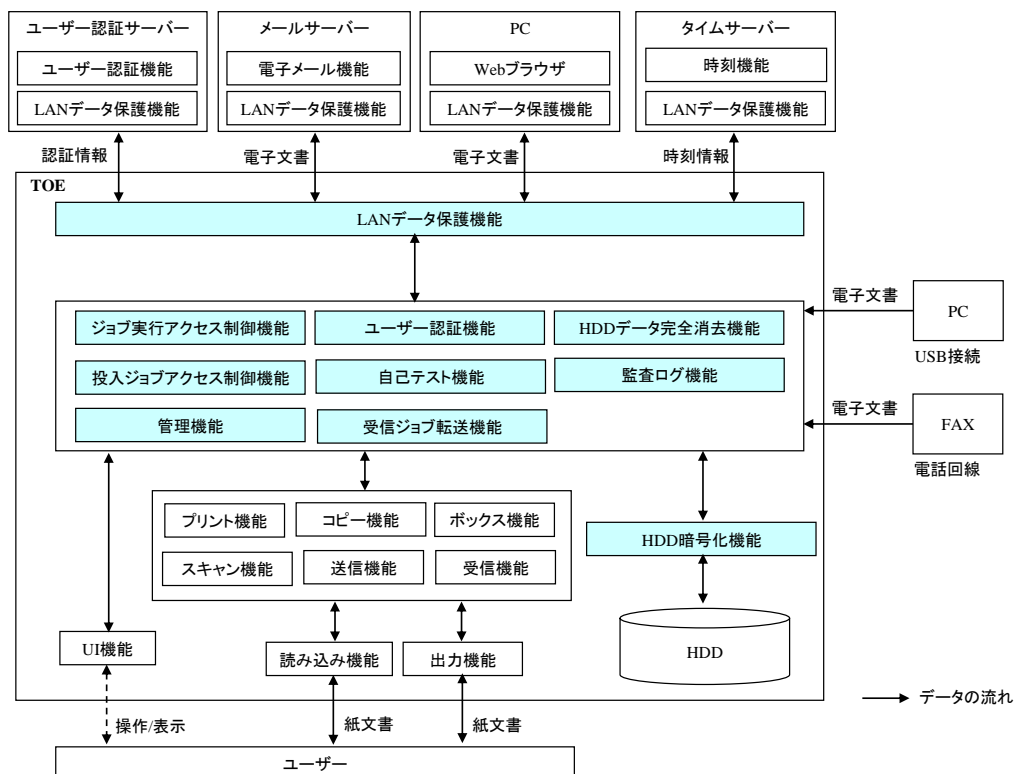


図5-1 TOE境界

また、図 5-1 で、TOE 内の色付の機能は 3 章で説明したセキュリティ機能であり、それ以外の機能は MFP の基本機能である。MFP の基本機能については、11 章の用語説明を参照。

TOE の利用者は、TOE の操作パネル（図 5-1 では UI 機能に相当）、LAN 接続された PC の Web ブラウザ（図 5-1 では PC の Web ブラウザに相当）、LAN または USB 接続された PC のプリンタドライバ（図 5-1 では PC は図示されているがプリンタドライバは省略されている。）を操作して、TOE を使用する。

TOE のセキュリティ機能は、利用者が MFP の基本機能を使用する際に適用される。以下、セキュリティ機能と MFP の基本機能の関係について説明する。

- ① 利用者がLANまたはUSB接続されたPCからプリントジョブを投入した場合、およびファクス/Iファクスを受信した場合には、識別認証なしで文書を受け付け、TOE内に格納される。TOE内に格納された文書は、操作パネルやWebブラウザを操作して利用する。

利用者が、操作パネルやWebブラウザを操作して、TOEの基本機能を使用する際には、まず「ユーザー認証機能」と「ジョブ実行アクセス制御機能」が適用され、正当な利用者だけにTOEの操作が許可される。さらに当該利用者がTOEに格納されている文書を操作する際には「投入ジョブアクセス制御機能」が適用され、操作対象の文書の所有者と管理者の操作だけが許可される。

利用者が、操作パネルやWebブラウザを操作して、セキュリティ機能の「管理機能」や「監査ログ機能」の中の監査ログを参照する機能を使用する際には、「ユーザー認証機能」が適用され、識別認証された管理者権限を持つ利用者だけにTOEの操作が許可される。

なお、これらのセキュリティ機能を使用する際に、「監査ログ機能」によって、監査ログが生成される。

- ② ①の利用時に、内蔵ハードディスク装置に格納されるデータ全体に対して、「HDD暗号化機能」が適用される。文書データを削除する際には、「HDDデータ完全消去機能」が適用される。
- ③ ①の利用時に、TOEと、その他のIT機器がLANを經由して通信する場合には、「LANデータ保護機能」が適用される。また、「受信ジョブ転送機能」により、各種インタフェースから入力されたデータに対して、TOEのセキュリティ機能が介在しない不正な中継が防止される。

## 5.2 IT環境

TOEの「ユーザー認証機能」で外部認証方式を使用する場合は、KerberosまたはLDAPのプロトコルでユーザー認証サーバが参照され識別認証が実施される。ユーザー認証サーバへの利用者情報の登録は、ユーザー認証サーバの管理機能で行う。

TOEの監査ログに記録される時刻情報は、TOEが保持している時刻が使用される。TOEの時刻はTOEの管理機能で設定され維持されると共に、外部のタイムサーバとNTPプロトコルで同期することも可能である。

TOEがネットワークを介して外部のIT機器と通信する際には、IPsecプロトコルを使用する。したがって、TOEと通信する外部のIT機器もIPsecプロトコルの設定が必要である。

## 6 製品添付ドキュメント

本 TOE に添付されるドキュメントの識別を以下に示す。TOE の利用者は、前提条件を満たすため下記ドキュメントの十分な理解と遵守が要求される。

(和文名称)

- ・ imageRUNNER ADVANCE C5255/ C5255F/ C5250/ C5250F/ C5240/ C5240F/ C5235/ C5235F e-マニュアル [FT5-4550(000)]
- ・ iR-ADVセキュリティキット・C1 for IEEE2600.1 アドミニストレーターガイド [FT5-4548(010)]
- ・ 『ACCESS MANAGEMENT SYSTEM 拡張キット・B1』個別管理構成アドミニストレーターガイド [FT5-4550(000)]
- ・ HDDデータ暗号化キット ユーザーズガイド [FT5-2437(020)]
- ・ iR-ADV セキュリティキット・C1 for IEEE 2600.1 をお使いになる前にお読みください [FT5-4549(010)]

(英文名称)

- ・ imageRUNNER ADVANCE C5255/ C5250/ C5240/ C5235 e-Manual [FT5-4553(000)]
- ・ iR-ADV Security Kit-C1 for IEEE 2600.1 Common Criteria Certification Administrator Guide [FT5-4551 (020)]
- ・ ACCESS MANAGEMENT SYSTEM Individual Management Configuration Administrator Guide [FT5-4553(000)]
- ・ HDD Data Encryption & Mirroring Kit-C Series User Documentation [FT5-2440(030)]
- ・ Before Using iR-ADV Security Kit-C1 for IEEE 2600.1 Common Criteria Certification [FT5-4552 (020)]

## 7 評価機関による評価実施及び結果

### 7.1 評価機関

評価を実施したみずほ情報総研株式会社 情報セキュリティ評価室は、IT セキュリティ評価及び認証制度により承認されるとともに、ILAC（国際試験所認定協力機構）と相互承認している認定機関（独立行政法人評価技術基盤機構認定センター）により認定を受けており、評価品質維持のためのマネジメント及び要員等の適切性についての要求事項を満たしていることが定期的に確認されている。

### 7.2 評価方法

評価は、CC パート 3 の保証要件について、CEM に規定された評価方法を用いて行われた。評価作業の詳細は、評価報告書において報告された。評価報告書では、本 TOE の概要と、CEM のワークユニットごとの評価内容及び判断結果を説明する。

### 7.3 評価実施概要

以下、評価報告書による評価実施の履歴を示す。

評価は、平成 26 年 6 月に始まり、平成 26 年 11 月評価報告書の完成をもって完了した。評価機関は、開発者から評価に要する評価用提供物件一式の提供を受け、一連の評価における証拠を調査した。また、平成 26 年 8 月に開発・製造現場へ赴き、記録及びスタッフへのヒアリングにより、構成管理の各ワークユニットに関するプロセスの施行状況の調査を行った。配付・開発セキュリティの開発・製造現場については、現地訪問は省略され、過去の認証案件での調査内容の再利用が可能であると、評価機関の責において判断されている。また、平成 26 年 7 月及び 8 月に開発者サイトで開発者のテスト環境を使用し、開発者テストのサンプリングチェック及び評価者テストを実施した。

各ワークユニットの評価作業中に発見された問題点は、すべて所見報告書として発行され、開発者に報告された。それらの問題点は、開発者による見直しが行われ、最終的に、すべての問題点が解決されている。

また、認証機関が見つけた評価の問題点は、認証レビューとして記述されて、評価機関へ渡された。

これらの指摘は、評価機関及び開発者が検討したのち、評価報告書に反映された。

## 7.4 製品テスト

評価者は、開発者の実施したテストの正当性を確認し、評価の過程で示された証拠と開発者のテストを検証した結果から、必要と判断された再現・追加テスト及び脆弱性評価に基づく侵入テストを実行した。

### 7.4.1 開発者テスト

評価者は、開発者が実施した開発者テストの完全性と実際のテスト結果の証拠資料を評価した。評価者が評価した開発者テストの内容を以下に説明する。

#### (1) 開発者テスト環境

開発者がテストした TOE は、2 章の TOE 識別で示した構成のうちの、デジタル複合機の機種が iR-ADV C5240 の場合の構成である。また、TOE に対して実施されたテストと、TOE の旧版(Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model バージョン 1.2)に対して実施されたテストがある。

- ・ テスト対象が iR-ADV C5240 であることについて

他機種は、スキャンやプリント等のハードウェア処理速度が異なるだけで、セキュリティ機能のふるまいに違いはなく、代表機種によるテストで十分であることが評価者によって評価されている。

なお、評価者は、機種依存性がないことを検証するために、開発者がテストしていない他機種でもテストを実施している。詳細は「7.4.2 評価者独立テスト」を参照。

- ・ TOE の旧版に対して実施されたテストについて

TOE と TOE の旧版の相違はソースコードのレベルで評価者により調査され、相違の影響範囲が特定された。TOE の旧版に対して実施されたテストは、相違の影響範囲ではない部分のテストであることが確認された。そのため、TOE の旧版に対して実施されたテストも TOE のテストとして採用できることが評価者によって判断されている。

なお、評価者は、相違の影響範囲外に相違の影響がなく、相違の影響範囲外のテストであれば TOE のテストとして採用できることの確信を得るために、TOE の旧版に対して実施されたテストの一部を TOE に対して実施している。詳細は「7.4.2 評価者独立テスト」を参照。

開発者が実施したテストの環境における TOE 以外の構成要素は、表 7-1 の通りである。テストの構成は図 4-1 に示した TOE 使用環境に準ずるが、以下の点で相

違がある。これらの構成でも ST において識別されている構成と同等であり、本 TOE の機能の確認には問題ないことが評価者により評価されている。

- ・ インターネットとは接続されていない環境を使用している。そのため、ST に記載されている環境の内、Firewall は存在しない。
- ・ ファクス対向機は、電話公衆回線の代わりに疑似交換機を介してファクスボードと接続される。
- ・ ユーザー認証サーバとしては、「ユーザー認証サーバ 1 兼タイムサーバ」と「ユーザー認証サーバ 2」が接続され、外部認証の protocols に応じて使い分ける。
- ・ インターネット上のタイムサーバは、「ユーザー認証サーバ 1 兼タイムサーバ」上のソフトウェアで代用されている。

表7-1 開発者テストの使用機器

名称	詳細
PC	利用者用PC。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OS : Windows 7 Professional</li> <li>・ Webブラウザ : Internet Explorer 8</li> <li>・ プリンタドライバ : Canon LIPSLX Printer Driver Version 20.90 Alpha1.0</li> </ul>
ユーザー認証サーバ1 兼タイムサーバ	外部認証使用時の認証サーバ(Kerberos)及びインターネットのタイムサーバの代用として使用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Server 2008 Enterprise SP1搭載PC</li> <li>・ 認証サーバソフトウェア : Active Directory Domain Services (OS附属)</li> <li>・ タイムサーバソフトウェア : Windows TIME (OS附属)</li> </ul>
ユーザー認証サーバ2	外部認証使用時の認証サーバ(LDAP)として使用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Sever 2003 Standerd Edition SP2搭載PC</li> <li>・ 認証サーバソフトウェア : eDirectory 8.8 SP7</li> </ul>
メールサーバ	Iファクスの送受信サーバとして使用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Server 2003 Standerd Edition SP2搭載PC</li> <li>・ メールサーバソフトウェア : Microsoft POP3 Service (OS附属) Simple Mail Transfer Protocol (OS附属)</li> </ul>

名称	詳細
ファクスボード	スーパー G3 FAX ボード・AE2 G3回線増設キット (2回線)・AE1 G3回線増設キット (3・4回線)・AE1
ファクス対向機	図4-1では電話公衆回線の先に存在するファクス機に対応する。テストでは、疑似交換機を介してファクスボードと接続される。 ・iR-ADV C5235

## (2) 開発者テスト概説

開発者テストの概説は以下のとおりである。

### a) テスト概要

開発者テストの概要は、以下のとおりである。

#### <開発者テスト手法>

- ① 操作パネル、Webブラウザ、プリンタドライバなどの利用者インタフェースを操作して、その表示、TOEのふるまい、監査ログの内容を確認する。
- ② HDDデータ完全消去機能の確認のために、HDD用プロトコルアナライザを使用して消去後のHDD内容を読み出して、所定のデータで上書きされていることを確認する。
- ③ HDD暗号化機能の確認のために、HDDに暗号化して書き込まれたデータと別ツールで暗号化した結果を比較し、仕様どおりの暗号アルゴリズムであることを確認する。また、暗号鍵生成で、様々なシードで乱数を生成してその結果を既知のデータと比較し、仕様どおりの暗号鍵生成アルゴリズムであることを確認する。
- ④ IPSec機能の確認のために、PCとの間でIPSecの通信を行い、IPSecの通信が正常に行われることを確認する。さらに、ネットワークアナライザにより仕様通りの暗号通信プロトコルが適用されていることを確認する。
- ⑤ HDDデータ暗号化/ミラーリングキットの本体識別認証機能の確認のために、正当な本体に接続した場合と、識別の異なる別本体に接続した場合のふるまいを確認する。

#### <開発者テストツール>

開発者テストにおいて利用したツールを表 7-2 に示す。



表7-2 開発テストツール

ツール名称	概要・利用目的
HDD用プロトコルアナライザ Catalyst Enterprises社 ST431-0-186	HDDの接続されたバスをモニタし、入出力データをキャプチャするツール。
LeCroy SATA Protocol Suite Ver.4.00 build 385	HDD用プロトコルアナライザによりキャプチャしたデータを解析するツール。
ネットワークアナライザ Wireshark Ver.1.2.11 Rev.34007	LAN上の通信データをモニタし、解析するツール。
暗号ライブラリ 富士通 AESライブラリ for FR 第1.0版	暗号アルゴリズムの実装の妥当性を確認するために、比較のために使用する。

#### <開発者テストの実施>

各種インタフェースより、MFPの基本機能とセキュリティ管理機能进行操作し、様々な入力パラメタに対して、適用されるセキュリティ機能が仕様通りに動作することを確認した。また、内部認証と外部認証の場合など、評価構成で許容されているすべての設定値が仕様通りに動作することを確認した。

#### b) 開発者テストの実施範囲

開発者テストは開発者によって340項目実施された。カバレッジ分析によって、機能仕様に記述されたすべてのセキュリティ機能と外部インタフェースが十分にテストされたことが検証された。深さ分析によって、TOE設計に記述されたすべてのサブシステムとサブシステムインタフェースが十分にテストされたことが検証された。

#### c) 結果

評価者は、開発者テストの実施方法、実施項目の正当性を確認し、テスト計画書に示された実施方法と実際の実施方法が一致することを確認した。評価者は、開発者が期待したテスト結果と開発者によって実施されたテスト結果が一致していることを確認した。

### 7.4.2 評価者独立テスト

評価者は、開発者テストから抽出したテスト項目を使用して製品のセキュリティ機能が実行されることを再確認するサンプルテストを実施するとともに、評価の過程で示された証拠から、製品のセキュリティ機能が確実に実行されることをより確

信するための独立テスト（以下「独立テスト」という。）を実施した。評価者が実施した独立テストを以下に説明する。

### (1) 独立テスト環境

評価者が実施したテストの構成は、開発者テストと同等の構成である。

評価者がテストした TOE は、2 章の TOE 識別に該当する機種の中の、iR-ADV C5240 と iR-ADV C5235 である。

評価者テストは本 ST において識別されている TOE 構成と同等の TOE テスト環境で実施されている。

なお、独立テスト環境の構成品やテストツールは、開発者テストに用いられたものを利用しており、それらの妥当性確認及び動作試験は、評価者によって実施されている。

### (2) 独立テスト概説

評価者の実施した独立テストは以下のとおりである。

#### a) 独立テストの観点

評価者は、TOEのセキュリティ機能が仕様どおりに機能することを評価者自らが実証するために、開発者テスト及び提供された評価証拠資料から、以下の観点での独立テストを考案した。

<独立テストの観点>

- ① 開発者と異なる機種をテストすることで、機種の違いはハードウェアの処理速度の違いだけであり、セキュリティ機能のふるまいに影響しないことを確認する。
- ② TOEの旧版に対して実施された開発者テストがTOEのテストとして採用できることの確信を得る。
- ③ オプションのファクスボードが装着されていない場合でも、ファクスの残りの1回線を含むTOEの機能に影響しないことを確認する。
- ④ 開発者テストのサンプリングの観点で、開発者が実施したテストから、すべてのTSFIとセキュリティ機能が含まれるようにテスト項目を抽出し、開発者と同じテストを実施する。
- ⑤ 開発者テストにおいて、セキュリティ機能のふるまいについて厳密なテストが実施されていないインタフェースが存在するため、テストされていないパラメタのふるまいを確認する。

#### b) 独立テスト概要

評価者が実施した独立テストの概要は以下のとおり。

<独立テスト手法>

開発者テストと同じ手法を使用して、開発者と同じテスト及び入力パラメータを変更したテストを実施する。

<独立テストツール>

開発者テストと同じツールを用いた。

<独立テストの実施内容>

評価者が実施した独立テストの観点とその対応したテスト内容を表 7-3 に示す。なお、開発者がすべての設定値をテストしているのに対し、評価者は、設置手順を終えた後の初期設定状態の設定値をテストしている。

④の観点で TOE の旧版に対して実施したテスト以外は、すべて TOE に対してテストを実施した。

表7-3 実施した独立テスト

独立テストの観点	テスト概要
①④	開発者が実施したテスト項目から、テストの観点に基づいてテスト項目を抽出して開発者と同じテストを実施し、開発者と同じ結果が得られることを確認する。実施したテストは340項目中、148項目である。
②	④の観点で実施したテストのうちTOEの旧版に対して実施したテストから代表的なものをTOEに対して実施し、同じ結果が得られることを確認する。
③	オプションのファクスボードが装着されていない状態で、開発者と同じテストを実施する。テストは、ファクスの残りの1回線に関連するテストを選択し、ファクスの回線数以外に相違がないことを確認する。
⑤	利用者のパスワード、ボックス暗証番号、保守のためのパスワードの長さ制限の限界値のふるまいが、仕様どおりであることを確認する。
⑤	TOEは、U.NORMALとして複数のルールを提供している。U.NORMALに該当するルールを付与された利用者は、どのルールの場合であっても、仕様どおりにU.ADMINISTRATOR用の管理機能は使用できないことを確認する。

独立テストの観点	テスト概要
⑤	TOEに登録されていないユーザー名で、セキュアプリントを送付した時のふるまいを確認する。 (管理者は、全てのセキュアプリントのジョブの確認や削除ができる。管理者以外は、ユーザー名が一致しないため操作できない。)
⑤	ボックスに格納した文書をネットワークに送信する最中にLANケーブルを抜き、仕様どおり送信エラーのログが作成されることを確認する。
⑤	TOE外の要因でファクス送信が阻害された場合でも、HDDデータ完全消去機能が適切に動作することを確認する。
⑤	通信先のPCのIPSecの設定が適切でない(暗号化をしない、または弱い暗号アルゴリズムの指定)場合に、IPsecの接続が確立しないことを確認する。
⑤	セキュアプリントの異なる設定の場合に、ユーザー認証機能はその影響を受けないことを確認する。
⑤	保守のための特別な機能が、識別・認証を必要としない特定の操作で利用可能にならないことを確認する。

### c) 結果

評価者が実施したすべての独立テストは正しく完了し、評価者はTOEのふるまいを確認した。評価者は、すべてのテスト結果と期待されるふるまいが一致していることを確認した。

## 7.4.3 評価者侵入テスト

評価者は、評価の過程で示された証拠から、想定される使用環境と攻撃レベルにおいて懸念される脆弱性となる可能性があるものについて、必要と思われる評価者侵入テスト（以下「侵入テスト」という。）を考案し実施した。評価者が実施した侵入テストを以下に説明する。

### (1) 侵入テスト概説

評価者が実施した侵入テストの概説は以下のとおりである。

#### a) 懸念される脆弱性

評価者は、提供された証拠資料や公知の情報より、潜在的な脆弱性を探索し、侵入テストを必要とする以下の脆弱性を識別した。なお、暗号鍵については、TOEの起動時に行われる暗号鍵の生成メカニズムとその開発者テストの分析から、想定している攻撃者の攻撃能力では暗号鍵の入手や推測ができないことが評

価されている。

- ① 公知の脆弱性情報であるネットワークサービスの不正利用、Webの各種脆弱性について、本TOEにも該当する懸念がある。
- ② Webのインタフェースについて、制限値を超えた長さの入力に対して、TOEが予期しない動作をする懸念がある。
- ③ Webのインタフェースについて、URLを直接指定したりセッション管理情報を推定したりすることにより、識別認証やアクセス制御がバイパスされる可能性がある。
- ④ プリントのジョブに使われている言語を悪用し、TOEに対する不正な情報の取得や改ざんが行われる可能性がある。
- ⑤ スタートアップやクローズダウンの途中で電源OFF/ONを行うと、TOEが予期しない動作をする懸念がある。
- ⑥ 操作パネルとWebブラウザのインタフェースから、同時に同じ文書データを操作すると、TOEが予期しない動作をする懸念がある。
- ⑦ ディスク領域などTOE内のリソースが枯渇すると、TOEが予期しない動作をする懸念がある。
- ⑧ 保守のための特別な操作で起動したときに、その状態の操作でセキュリティ侵害が起こることの懸念がある。

#### b) 侵入テストの概要

評価者は、潜在的な脆弱性が悪用される可能性を検出するために、以下の侵入テストを実施した。

##### <侵入テスト環境>

評価者独立テスト環境と同じ環境で実施した。テスト対象の TOE は、iR-ADV C5235 である。

保守のための特別な操作で起動したときのテストは (TOE の旧版ではなく)TOE に対して実施した。

それ以外のテストは TOE の旧版に対して実施したが、以下の確認により TOE のテストとして採用できることが評価者により判断された。

- ・ TOE と TOE の旧版の相違の影響範囲外のテストであること。
- ・ TOE と TOE の旧版の相違の影響範囲外のテストは、ソースコードの比較調査と評価者独立テストの結果に基づき、TOE の旧版のテストも TOE のテストとして採用できること。

侵入テスト用のツールを搭載した PC を追加して使用した。使用したツールの詳細を表 7-4 に示す。

表7-4 侵入テスト構成

名称	概要・利用目的
侵入テスト用PC	Windows XPを搭載したPCであり、以下の侵入テスト用ツールを動作させる。
①Nessus 5.2.7	ネットワークサービスの脆弱性を検出するツール。脆弱性データは、2014年7月3日時点で最新のもの。
②nmap 6.46	どのようなネットワークサービスが提供されているかを検出するツール。
③Nikto 2.1.5	Webサーバの脆弱性を検出するツール。脆弱性データは、2014年7月3日時点で最新のもの。
④OWASP ZAP 2.3.1	Webアプリケーションの脆弱性を検出するツール。
⑤Tamper IE 1.0.1.13	Webブラウザ（PC）とWebサーバ（TOE）間の通信を仲介し、その間の通信データの参照と変更を行うツール。 Tamper IEにより、Webブラウザの制約を受けずに、通信データを任意のデータに変更してWebサーバに送信することができる。

<侵入テストの実施項目>

懸念される脆弱性と対応する侵入テスト内容を表 7-5 に示す。

表7-5 侵入テスト概要

脆弱性	テスト概要
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEに対して、Nessusとnmapを使用してオープンポートと脆弱性の探索を行い、想定外のポートがオープンされていないこと、オープンポートに公知の脆弱性が存在しないことを確認した。</li> <li>また、NiktoとOWASP ZAPを使用してTOEのWebサーバ機能の脆弱性の探索を行い、公知の脆弱性が存在しないことを確認した。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスワード変更画面で、TamperIEを使用してWebブラウザからTOEへの通信データを変更し、上限値を超えるパスワードを送信してもエラーとなり、異常な動作はしないことを確認した。</li> </ul>

脆弱性	テスト概要
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webブラウザのログイン画面で、ログインせずにログイン後のURLを直接指定してもログイン画面が表示され、ログインをバイパスすることができないことを確認した。</li> <li>WebブラウザからTOEにログインしている間のセッション情報をTamperIEで複数取得し、それらが想定している攻撃者の攻撃能力では推測できない乱数となっていることを確認した。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントのジョブに使われている言語の文法に基づき、情報の不正な取得や改ざんが懸念されるようなジョブを作成してTOEに送信する。これにより、情報の不正な取得や改ざんができないことを確認した。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOE起動途中で電源ボタンをOFFにすると、起動途中であってもシャットダウンが実行され、異常な動作はしないことを確認した。</li> <li>TOEシャットダウン途中で電源ボタンをONにすると、シャットダウン完了後に起動され、異常な動作はしないことを確認した。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作パネルとWebブラウザから、同時に同じ文書を削除、文書の結合の結果を同じファイル名に格納するなど、同時アクセスを行う。その結果、最初の削除が有効、後から完了した格納が有効などの動作となり、異常な動作はしないことを確認した。</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>HDDの保存領域が一杯になった状態で、さらにデータの保存を試みてもエラーとなり、異常な動作はしないことを確認した。</li> <li>同様に、登録ユーザー数、セキュアプリントのジョブ数、ファクスの受信領域の上限についてもテストを行い、異常な動作はしないことを確認した。</li> </ul>
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守のための特別な操作で起動したときに、操作パネルやネットワークから可能な操作をし、異常な動作はしないことを確認した。</li> </ul>

### c) 結果

評価者が実施した侵入テストでは、想定する攻撃能力を持つ攻撃者が悪用可能な脆弱性は確認されなかった。

## 7.5 評価構成について

本評価の前提となる TOE の構成条件はガイダンスに記述されているとおりであり、各種設定値をガイダンスに従って設定する必要がある。TOE の設定値の中には、セキュリティ機能の ON/OFF などが含まれており、本評価では値が固定されているものが存在する。それらのセキュリティに影響する設定値をガイダンスで禁止されている値に変更した場合、本評価の対象の構成ではない。

## 7.6 評価結果

評価者は、評価報告書をもって本 TOE が CEM のワークユニットすべてを満たしていると判断した。

評価では以下について確認された。

- ・ PP適合 :  
2600.1, Protection Profile for Hardcopy Devices, Operational Environment A  
(IEEE Std 2600.1-2009)

また、上記PPで定義された以下のSFRパッケージに適合する。

- 2600.1-PRT, SFR Package for Hardcopy Device Print Functions, Operational Environment A 適合
- 2600.1-SCN, SFR Package for Hardcopy Device Scan Functions, Operational Environment A 適合
- 2600.1-CPY, SFR Package for Hardcopy Device Copy Functions, Operational Environment A 適合
- 2600.1-FAX, SFR Package for Hardcopy Device Fax Functions, Operational Environment A 適合
- 2600.1-DSR, SFR Package for Hardcopy Device Document Storage and Retrieval (DSR) Functions, Operational Environment A 適合
- 2600.1-NVS, SFR Package for Hardcopy Device Nonvolatile Storage Functions, Operational Environment A 追加
- 2600.1-SMI, SFR Package for Hardcopy Device Shared-medium Interface Functions, Operational Environment A 追加

- ・ セキュリティ機能要件 : コモンクライテリア パート2拡張
- ・ セキュリティ保証要件 : コモンクライテリア パート3適合

評価の結果として、以下の保証コンポーネントについて「合格」判定がなされた。

- ・ EAL3パッケージのすべての保証コンポーネント
- ・ 追加の保証コンポーネント ALC\_FLR.2

評価の結果は、第2章で識別されたTOEについて、本章の評価された構成のみに適用される。



## 7.7 評価者コメント/勧告

調達者に喚起すべき評価者勧告は、特になし。

## 8 認証実施

認証機関は、評価の過程で評価機関より提出される各資料をもとに、以下の認証を実施した。

- ① 所見報告書でなされた指摘内容が妥当であること。
- ② 所見報告書でなされた指摘内容が解決されていること。
- ③ 提出された証拠資料をサンプリングし、その内容を検査し、関連するワークユニットが評価報告書で示されたように評価されていること。
- ④ 評価報告書に示された評価者の評価判断の根拠が妥当であること。
- ⑤ 評価報告書に示された評価者の評価方法がCEMに適合していること。

これらの認証において発見された問題事項を、認証レビューとして作成し、評価機関に送付した。認証機関は、本 ST 及び評価報告書において、認証レビューで指摘された問題点が解決されていることを確認し、本認証報告書を発行した。

### 8.1 認証結果

提出された評価報告書、所見報告書及び関連する評価証拠資料を検証した結果、認証機関は、本 TOE が CC パート 3 の EAL3 及び保証コンポーネント ALC\_FLR.2 に対する保証要件を満たすものと判断する。

### 8.2 注意事項

- (1) 本 TOE はファクス機能を含む PP 適合を主張しており、本評価では、TOE である MFP にオプションのファクスボードを搭載した構成である場合が保証された。  
以下は、本評価で保証される構成ではない。
  - ファクスボードを搭載していない構成。
  - ファクスボードを標準搭載した機種(iR-ADV C5255F など、末尾に F の付いた型番)。
- (2) 本評価は、ファクスボックスは利用できない設定で実施された。つまり、ファクスボックスを利用する設定とした場合は、本評価による保証の対象とはならない。

- (3) 本評価では、PP で要求されているセキュリティ機能要件について、PC からのプリントジョブの投入時には、識別認証の要件は存在しないという解釈がされている。そのため、プリントジョブの投入時にも識別認証を期待する消費者にとっては、ニーズに合致しない可能性があるため、注意が必要である。
- (4) TOE で「外部認証方式」を使用する場合、ユーザー認証サーバとの通信に LDAP を使用できる。その場合、認証サーバソフトウェアとして eDirectory 8.8 SP7 を使用する場合のみが本評価により保証された。

## 9 附属書

特になし。

## 10 セキュリティターゲット

本 TOE のセキュリティターゲット[12]は、本報告書とは別文書として以下のとおり本認証報告書とともに提供される。

Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model Security  
Target Version 1.08 2014 年 8 月 7 日 キヤノン株式会社

## 11 用語

本報告書で使用された CC に関する略語を以下に示す。

CC	Common Criteria for Information Technology Security Evaluation (セキュリティ評価基準)
CEM	Common Methodology for Information Technology Security Evaluation (セキュリティ評価方法)
EAL	Evaluation Assurance Level (評価保証レベル)
PP	Protection Profile (プロテクションプロファイル)
ST	Security Target (セキュリティターゲット)
TOE	Target of Evaluation (評価対象)
TSP	TOE Security Functionality (TOEセキュリティ機能)

本報告書で使用された TOE に関する略語を以下に示す。

MFP	Multifunction Product (デジタル複合機)
HCD	Hardcopy Device

本報告書で使用された用語の定義を以下に示す。

Hardcopy Device (HCD)	A system producing or utilizing a physical embodiment of an electronic document or image. These systems include printers, scanners, fax machines, digital copiers, MFPs (multifunction peripherals), MFDs (multifunction devices), “all-in-ones,” and other similar products.
Iファクス	電話回線の代わりにインターネットを使用してファクス文書の送受信を行う、インターネットファクスのこと。
TOE Owner	A person or organizational entity responsible for protecting TOE assets and establishing related security policies.
U.ADMINISTRATOR	A User who has been specifically granted the authority to manage some portion or all of the TOE and whose actions may affect the TOE security policy (TSP). Administrators may possess special privileges that provide capabilities to override portions of the TSP.

U.NORMAL	A User who is authorized to perform User Document Data processing functions of the TOE
User Document Data	The asset that consists of the information contained in a user's document.
User Function Data	The asset that consists of the information about a user's document or job to be processed by the TOE.
TSF Confidential Data	Assets for which either disclosure or alteration by a User who is not an Administrator or the owner of the data would have an effect on the operational security of the TOE.
TSF Protected Data	Assets for which alteration by a User who is not an Administrator or the owner of the data would have an effect on the operational security of the TOE, but for which disclosure is acceptable.
UI機能	利用者が操作パネルを用いてTOEを操作したり、TOEが操作パネルに表示したりする機能。
コピー機能	紙文書を読み込み、プリントすることにより、紙文書を複写する機能。
受信機能	Iファクスで受信した電子文書を紙文書にプリントまたは電子文書として転送する機能。
出力機能	TOEが紙文書を出力する機能。
スキャン機能	紙文書を読み込み、電子文書を生成する機能。
セキュアプリント	暗証番号が付与された文書のプリント。
送信(Universal Send)機能	紙文書をスキャンして生成された電子文書やボックスに保存されている電子文書を、電子メールアドレス、PCの共有フォルダ、Iファクスなどに送信する機能。
ファクスボックス	ファクス/Iファクス転送された電子文書が保存されるボックスであり、保存された電子文書のプリントが可能である。
プリント機能	TOE内に格納された電子文書を紙文書にプリントする機能。
プリント設定	プリント機能に関する各種設定。カラーと白黒の選択、用紙選択、両面印刷などの設定が含まれる。
ボックス	TOEにおいて、読み込みやプリント、ファクス受信した電子文書を保存する領域。
ボックス暗証番号	電子文書が格納されているボックス毎の暗証番号。電子文書に対するアクセス制御に用いられる。

ボックス機能	紙文書をスキャンして読み込んだ電子文書、PCから保存指定した電子文書、Iファクス受信した電子文書を、ボックスに保存する機能。及び、ボックスに保存された文書に対して、プリント、送信、削除の操作を提供する機能。
読み込み機能	TOEが紙文書を入力する機能。

## 12 参照

- [1] ITセキュリティ評価及び認証制度の基本規程, 平成26年3月, 独立行政法人情報処理推進機構, CCS-01
- [2] ITセキュリティ認証等に関する要求事項, 平成26年4月, 独立行政法人情報処理推進機構, CCM-02
- [3] ITセキュリティ評価機関承認等に関する要求事項, 平成25年4月, 独立行政法人情報処理推進機構, CCM-03
- [4] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part 1: Introduction and general model, Version 3.1 Revision 4, September 2012, CCMB-2012-09-001
- [5] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part 2: Security functional components, Version 3.1 Revision 4, September 2012, CCMB-2012-09-002
- [6] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part 3: Security assurance components, Version 3.1 Revision 4, September 2012, CCMB-2012-09-003
- [7] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート1: 概説と一般モデル, バージョン3.1 改訂第4版, 2012年9月, CCMB-2012-09-001, (平成24年11月, 翻訳第1.0版)
- [8] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート2: セキュリティ機能コンポーネント, バージョン3.1 改訂第4版, 2012年9月, CCMB-2012-09-002, (平成24年11月, 翻訳第1.0版)
- [9] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート3: セキュリティ保証コンポーネント, バージョン3.1 改訂第4版, 2012年9月, CCMB-2012-09-003, (平成24年11月, 翻訳第1.0版)
- [10] Common Methodology for Information Technology Security Evaluation : Evaluation methodology, Version 3.1 Revision 4, September 2012, CCMB-2012-09-004
- [11] 情報技術セキュリティ評価のための共通方法: 評価方法, バージョン3.1 改訂第4版, 2012年9月, CCMB-2012-09-004, (平成24年11月, 翻訳第1.0版)
- [12] Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model Security Target Version 1.08 2014年8月7日 キヤノン株式会社
- [13] Canon imageRUNNER ADVANCE C5200 Series 2600.1 model 評価報告書 第3版 2014年11月21日 みずほ情報総研株式会社 情報セキュリティ評価室
- [14] IEEE Std 2600.1-2009, IEEE Standard for a Protection Profile in Operational Environment A, Version 1.0, June 2009